

News

卒業論文発表会

3月23日(火)、2020年度の卒業論文発表が行われ、吉田亘志、中村峻也、そして石原千聖の3名が発表を行った。研究室に配属されてから1年間の集大成となる大事な発表だ。時間無制限の質疑応答では、次々とする質問に対して落ち着いた様子で答えていた。来年度からは石原は社会人になり、吉田と中村は博士前期課程に進学する。研究室生活で学んだことが少しでも今後に生かされることを願っている。



終了時に無事に卒業論文発表を終えた吉田(左)、中村(中央)と石原(右)。

《題目紹介》

・吉田亘志

「LX-2 細胞を用いた肝線維化細胞モデルに対する α -トコフェロールとメナキノン-4 の影響を調べるための基礎的研究」

・中村峻也

「4,8-スフィンガジエニンとガレクチン-9 の共存による肥満細胞脱顆粒抑制への影響の評価」

・石原千聖

「炎症性サイトカイン産生における食品因子の関与」

学位授与式

3月24日(水)と25日(木)の両日に、学位授与式が行われた。まず

24日に博士課程後期課程のChidube Anthony Alagbaoso(以下、アンソニー)、25日には博士課程前期課程の清水遥河と榎田麻里と学部生の吉田亘志、中村峻也、石原千聖の計6名が終了式および卒業式を迎えた。今年は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、例年行われていたLANS BOXでの祝賀会や農学部棟での懇親会などが全て中止となり、いつもより寂しく、そして慌ただしい別れになった。



学位記を持って記念撮影。左から順にAnthony(D3)、清水(M2)、榎田(M2)、吉田(B4)、中村(B4)。



2021年度食品栄養化学研究室で記念撮影。左から竹本孝多(M1)、榎田、Gnangnan Joelle Epiphane Ezan(D1)、吉田、アンソニー、中村(B4)、重房俊哉(B4)、清水、楊寧(M1)。

ご卒業・ご修了

おめでとうございます！

Surprise !

2020年度の卒業・修了生(田代純輝さん、丸岡祐子さん、森田温子さん、植野 晃さん、中野泉樹さん)と大村周さんが、アンソニーへ感謝の気持ちを伝えるためにメッセージカードを送って下さった。アンソニーは思いがけないサプライズプレゼントにとっても嬉しそうだった。Anthony に代わってお礼を言わせていただきます。皆さま、

ありがとうございました！今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



プレゼントを持って記念撮影を行うアンソニー。

フリースペース

こんにちは。M2の竹本孝多です。今回は最近の生活で私が感動したことを紹介させていただきます。それは「卵が片手で割れるようになったこと」です。突然ですが、スタジオジブリの作品である「ハウルの動く城」という映画をご存知でしょうか。小学生の頃にその映画を見て、登場人物の一人であるハウルが卵を片手で割るスタイリッシュな動作が当時は非常に格好良く感じました。コロナでの巣籠りからの影響から料理をする機会が増えたのですが、卵を使用した料理を作ろうとしている際に、ふとその事を思い出し、何気なく挑戦してみました。殻が混ざってしまい悲惨なことになるだろうと考えていましたが、結果はなんと上手く割ることができました。他の人から見ればとてもつまらないことのように思われるかもしれませんが、当時の私はカッコいい大人の条件として卵を片手で割れることを挙げていたほどその行為に憧れを持っていました。成長するにつれその思いは薄れていきましたが、

それでもやはり少しでもハウルに近づけたということもあり、一人で喜びを感じていました。当時の私に「君は大きくなったら卵を片手で割れるよ」と伝えたいです。

編集後記

3月は桜の季節ですが、私がこの記事を書いている今現在ではコロナの感染拡大が進んでおり、みんなでのお花見はまだしにくい状況です。今後も油断せず、手洗い、屋内でのマスク着用、3密回避などみなさん一緒に頑張りましょう！

楊箏(新M2)